

2026年2月期第2四半期(中間期)決算説明会

概要

企 業 名:東宝株式会社

証券コード:9602

イベント名:2026年2月期第2四半期(中間期)決算説明会

日 程:2025年10月16日(木)

時 間:15:30 -16:30

登 壇 者:代表取締役社長 社長執行役員 松岡 宏泰、取締役 副社長執行役員 太古 伸幸

<p>2026年2月期 第2四半期(中間期) 業績</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 営業収入1,916億円、営業利益411億円。「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより映画事業が好調に推移。 • 前期の「ゴジラ-1.0」の配信権収入の剥落や帝国劇場の一時休館の影響等を乗り越え、増収増益に • 親会社株主に帰属する中間純利益は、政策保有株式の売却もあり大幅増益に
<p>2026年2月期 通期業績予想</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「鬼滅の刃」「国宝」の記録的なヒットにより、映画事業が当初の予想を大きく上回り推移したことに加え、IP・アニメ、演劇、不動産事業も堅調に推移したこと等から、通期業績予想を上方修正 • 期末の配当予想は当社の株主還元の方針に基づき検討
<p>トピックス</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 東宝グループ国内配給作品の興行収入が歴代年間記録を史上最速で更新 • ワーナー・ブラザーズ洋画作品の日本国内向け劇場配給の受託に合意 • 東宝グループの理念体系を刷新。グループ・スローガンを制定 • 自己株式の取得と自己株式の公開買い付けを発表

松岡：代表取締役社長の松岡でございます。本日はご多忙のところ、第2四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

早速ですが、決算のエグゼクティブサマリーからご説明いたします。

2026年2月期第2四半期累計の営業収入は1,916億円、営業利益は411億円となりました。「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより、映画事業が好調に推移。「ゴジラ-1.0」の配信権収入の剥落や、帝国劇場の一時休館の影響等を乗り越え、増収増益となりました。

また、「鬼滅の刃」「国宝」の記録的なヒットにより、映画事業が当初の予想を大きく上回り推移したことに加え、IP・アニメ、演劇、不動産事業も堅調に推移したことなどから、通期業績予想を上方修正いたしました。

トピックスにつきましては、次ページ以降でご説明いたします。

東宝グループ国内配給作品の興行収入が歴代年間記録を史上最速で更新



2025年1月～9月のグループ累計興行収入は1,328億円を記録
(東宝:1,168億円、東宝東和/東和ピクチャーズ:159億)
歴代最高の年間興行収入記録を更新

ワーナー・ブラザーズ洋画作品の日本国内向け劇場配給の受託に合意

- ・東宝東和が、ワーナー・ブラザーズが扱う洋画作品の日本国内における劇場配給について合意
- ・東宝東和の子会社である東和ピクチャーズを通じて、2026年より国内配給を開始。最初の配給作品は、エメラルド・フェネル監督の「嵐が丘」を予定
- ・宣伝業務は東和ピクチャーズが、営業業務は当社が、それぞれ東宝東和より受託予定

GKIDSが「国宝」の北米配給権を獲得

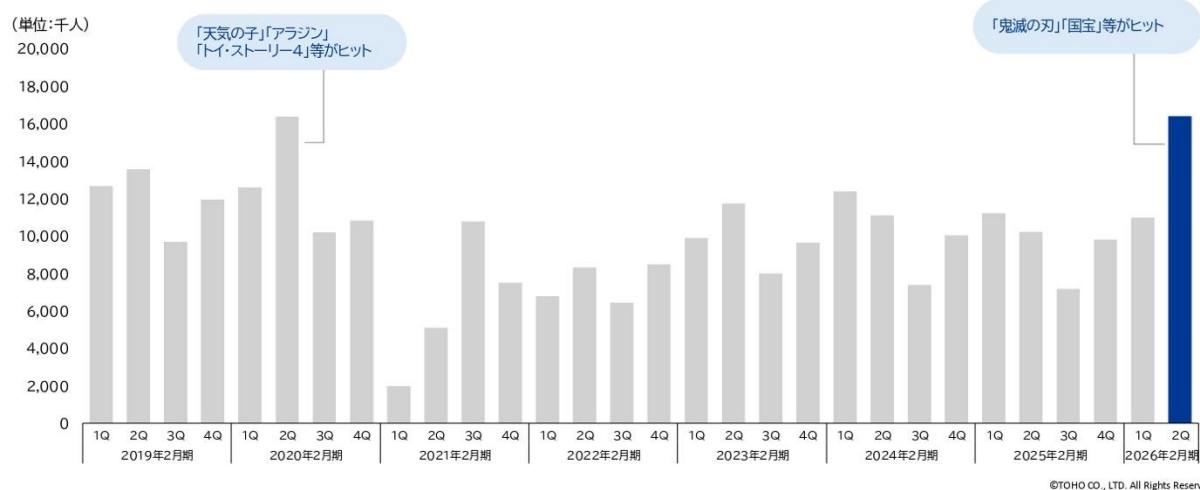
東宝とソニー・ピクチャーズ エンタテインメントが「果てしなきスカーレット」を日本および全世界で共同配給

まず、映画事業のトピックスです。「鬼滅の刃」「国主」のメガヒットは、期初のわれわれの予想をはるかに超えた結果となりました。これにより、東宝グループ配給作品の2025年1月から9月までの累計興行収入は1,328億円となり、歴代年間興行収入の記録を現在も更新中です。

また2026年からは、新たにワーナー・ブラザーズの洋画作品の国内向け劇場配給を受託することとなりました。これにより、ハリウッドメジャースタジオ3社の洋画作品の国内配給を担うこととなり、来期の配給ラインナップに厚みが増すことになります。

東宝グループ映画興行部門 映画館入場者数の推移

26/2期2Q(6-8月)の東宝グループ映画館入場者数は、直近ピークの20/2期2Q(6-8月)の実績を上回る



東宝グループの四半期別の映画館入場者数の推移となります。2026年2月期2Qの映画館入場者数は、コロナ禍前の2020年2月期2Qの実績を上回りました。

今年の夏は「鬼滅の刃」「国宝」以外にも、「TOKYO MER」「8番出口」「ジュラシック・ワールド」といった作品もヒットし、多くのお客様に映画館へ足を運んでいただきました。

東宝グループの理念体系を刷新。グループ・スローガンを制定



東宝グループは2025年10月、グループ全体を貫く新たな理念体系を制定いたしました。

新グループ・スローガン「**Moments for Life** その時間が、人生の力になる。」を未来へ進む羅針盤とし、「心を揺り動かし、人生の力となる時間を届け、人々の幸福に貢献する」というパーパスの実現に向け、グループ一丸となって経営を推進してまいります。

▶ 詳細は統合報告書2025をご覧ください

[統合報告書](#)

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 6

10月には、事業環境の変化とグローバルなエンタテインメント市場の拡大を見据え、企業理念を再定義し、東宝グループ全体を包含する新たな理念体系を制定しました。

本刷新では、創業者・小林一三が遺した「朗らかに、清く正しく美しく」「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」「我々の享くる幸福はお客様の賜ものなり」を理念の礎として再確認するとともに、グループの未来に向けた羅針盤として、グループ・スローガン「Moments for Life その時間が、人生の力になる。」、グループ・パーパス「心を揺り動かし、人生の力となる時間を届け、人々の幸福に貢献する」を新たに策定しました。新スローガンのもと、パーパスの実現に向けて、国内外のグループ一丸で経営を推進してまいります。

自己株式の取得と自己株式の公開買い付け

自己株TOBで適切な資本アロケーションの実現に加え、EPS・ROEの改善に寄与

概要

- 10/15発表
- 10/16～11/13まで買付け
- 買付け価格:普通株式1株 8,782円
- 自己株式の取得:総数200万株(上限)
(発行済み株式数の1.18%)、取得価額
総額175.6億円(上限)

経緯

- エイチ・ツー・オー リテイリング(株)より
売却意向を受け、様々な手法について
検討
- 自己株式の取得であれば、マーケット影
響が相対的に少なく、また、EPS向上
やROE等の資本効率の向上に寄与し、
株主の皆様に対する利益還元につながる
と判断

キャピタルアロケーション(中計2028)

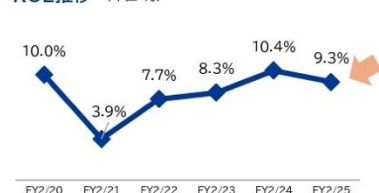


大株主の状況(2025年8月末時点)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式(%)
阪急阪神ホールディングス(株)	22,807	13.45%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	18,615	10.97%
阪急阪神不動産(株)	15,150	8.93%
(株)日本カストディ銀行(信託口)	10,004	5.90%
エイチ・ツー・オー リテイリング(株)	8,797	5.18%
(株)フジ・メディア・ホールディングス	4,940	2.91%
(株)TBSテレビ	4,521	2.66%
(株)竹中工務店	3,785	2.23%
(株)丸井グループ	2,578	1.52%
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234(常任代理人株式会社み ずほ銀行決済営業部)	2,430	1.43%

※ 株式数は千株未満、発行済株式(%)は小数点2位未満切り捨ての数字、且つ自己株式を除く

ROE推移 (単位:%)



EPS推移 (単位:円)



※FY2/26のEPS(予想)は本自己株TOBの考慮前
©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 7

また、昨日開示いたしました「自己株式の取得および自己株式の公開買い付け」についてご説明いたします。当社の株主であるエイチ・ツー・オー リテイリングから、所有する株式の一部を政策保有株式の見直しの一環で売却する意向がある旨の連絡を受けました。社内で検討を重ねた結果、EPS および ROE などの資本効率の向上に寄与し、株主の皆様に対する利益還元につながると判断したため、今回、自己株式の公開買い付けを実施いたします。

公開買付け価格は 14 日の終値に対して 10%ディスカウントした 8,782 円。買付予定数は 200 万株、所有割合 1.18%を上限といたします。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

連結業績ハイライト(中間期)

「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより映画事業が好調に推移。前期の「ゴジラ-1.0」の配信権収入の剥落や帝国劇場の一時休館の影響等を乗り越え、増収増益に

(単位:百万円)

	2025年2月期 第2四半期(中間期)	2026年2月期 第2四半期(中間期)	増減	増減率
営業収入	163,681	191,677	27,996	17.1%
営業利益	40,915	41,146	230	0.6%
経常利益	39,781	42,192	2,411	6.1%
親会社株主に 帰属する中間純利益	26,485	33,450	6,964	26.3%

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 9





続きまして、連結業績ハイライトについてご説明いたします。営業収入は1,916億円、営業利益は411億円でした。「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより映画事業が好調に推移し、「ゴジラ-1.0」の配信権収入の剥落や帝国劇場の一時休館の影響等を乗り越え、増収増益となりました。

なお、中間純利益につきましては、政策保有株式の売却に伴い特別利益を計上したことなどにより、増益となっております。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

セグメント別業績一覧(中間期)

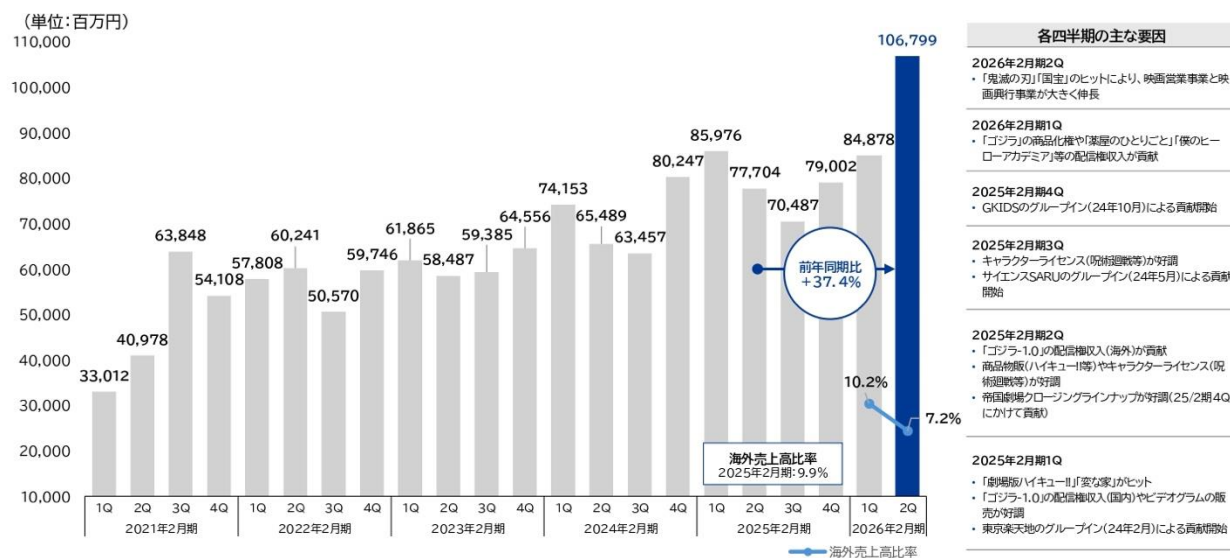
(単位:百万円)

		2025年2月期2Q (中間期)	2026年2月期2Q (中間期)	増減	増減要因(営業収入)	増減要因(営業利益)
 映画事業	営業収入	79,608	103,709	+24,100	・「ゴジラ-1.0」の配信権収入の剥落があったものの、「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより大幅増収	・増収に伴い増益
	営業利益	20,446	23,193	+2,747		
	営業利益率	25.7%	22.4%	△3.3ポイント		
 IP・アニメ事業	営業収入	34,244	37,313	+3,069	・サイエンス SARU や GKID S が貢献 ・「ゴジラ」の商品化権利利用の伸長により増収	・のれんの償却額の増加やパッケージ・商品物販等の減少に伴い減益
	営業利益	13,290	10,698	△2,591		
	営業利益率	38.8%	28.7%	△10.1ポイント		
 演劇事業	営業収入	9,974	10,698	+723	・帝国劇場の休館中も主催公演の回数確保に努めた結果、増収	・借館料等の公演に係る費用等の増加により減益
	営業利益	1,241	997	△243		
	営業利益率	12.4%	9.3%	△3.1ポイント		
 不動産事業	営業収入	39,198	39,314	+115	・不動産保守・管理事業において、大型案件を受注したこと等から増収	・大規模補修繕費の減少や道路事業において原材料等上昇分の価格スライドが認められたことにより増益
	営業利益	8,844	10,463	+1,619		
	営業利益率	22.6%	26.6%	+4.1ポイント		
その他事業	営業収入	653	641	△12	—	—
	営業利益	91	71	△20		
	営業利益率	14.1%	11.2%	△2.9ポイント		
調整額	営業利益	△2,998	△4,278	△1,279	—	—

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 10

セグメント別業績一覧となります。こちらは後ほどご確認いただければと思います。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績
営業収入推移(四半期)



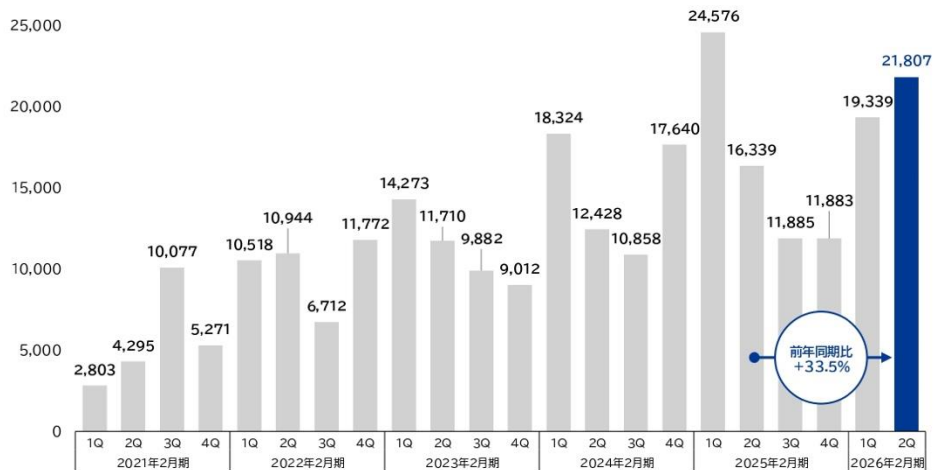
©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 11

四半期別の営業収入の推移です。第2四半期の営業収入は、「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより映画事業が好調に推移したことなどにより、前年同期と比べ大幅に増収となりました。

なお、第2四半期の海外売上高比率は7.2%となりました。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績 営業利益推移(四半期)

(単位:百万円)



各四半期の主な要因

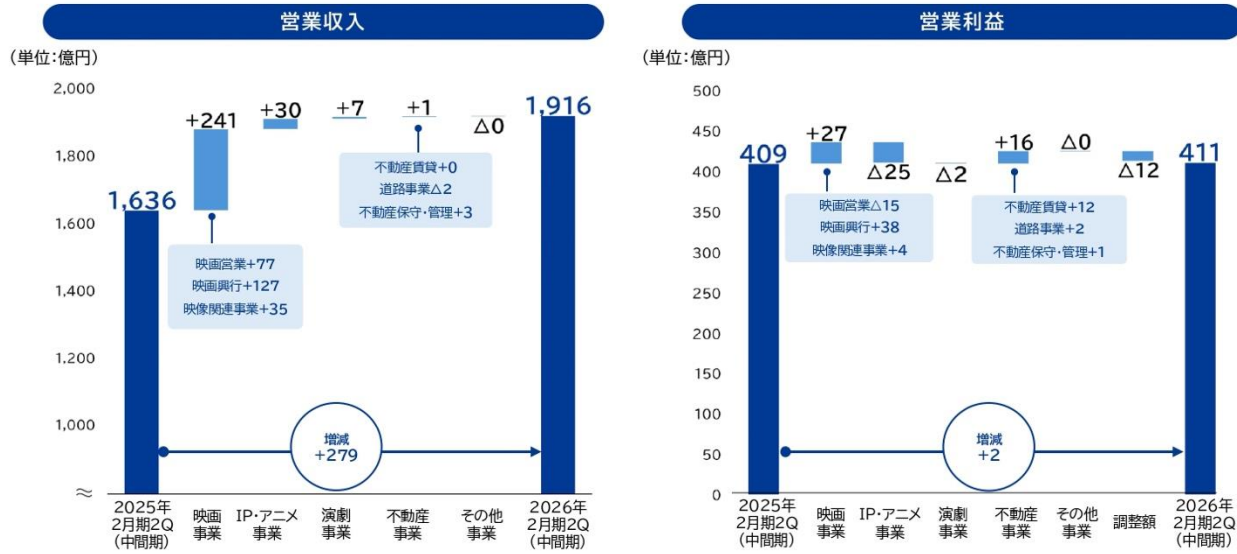
- 2026年2月期2Q**
 - 「鬼滅の刃」「国宝」のヒットにより、映画営業事業と映画興行事業が大きく伸長
- 2026年2月期1Q**
 - 「ゴジラ」の商品化(映画「怪獣の力」)と「怪獣のヒーローアカデミア」等の配信収入が貢献
- 2025年2月期4Q**
 - 帝都ビル解体工事にかかる一時的な費用を計上
 - GKIDSのグループイン(24年10月)により、のれん/無形資産の償却開始
- 2025年2月期3Q**
 - キャラクターライセンス(配給権等)が貢献
 - サイエンスSARUのグループイン(24年5月)により、のれん/無形資産の償却開始
- 2025年2月期2Q**
 - 「ゴジラ-1.0」の配信収入(海外)が貢献
 - 商品物販(「イキウ」等)やキャラクターライセンス(配給権等)が好調
 - 帝国劇場クロージングラインナップが好調(25/2期4Qも継続)
- 2025年2月期1Q**
 - 「劇場版/イキウ」変な家」がヒット
 - 「ゴジラ-1.0」の配信収入(国内)やビデオグラム販売が好調
 - 25/2期1Qに大規模修繕費が発生

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 12

四半期別の営業利益の推移です。こちらも映画事業が好調だったことなどにより、営業利益は前年同期と比べ増益となりました。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

営業収入・営業利益の増減(中間期)



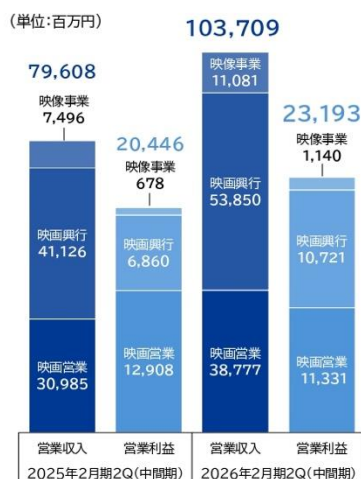
©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 13

セグメントごとの営業収入と営業利益の増減状況は、記載のとおりです。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

映画事業セグメントの業績(中間期)

「鬼滅の刃」「国宝」等のヒットにより映画事業が好調に推移し、前年同期と比べ増収増益



		2025年2月期				2026年2月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
映画営業	営業収入	17,673	13,311			12,992	25,784		
	営業利益	8,416	4,491			4,185	7,145		
映画興行	営業収入	21,372	19,754	14,930	19,576	22,143	31,707		
	営業利益	3,805	3,054	709	2,202	3,972	6,749		
映像関連	営業収入	3,892	3,604			5,138	5,942		
	営業利益	617	60			888	252		
参考	配給収入	13,951	8,351			10,638	23,260		
	映像の利用・許諾	3,441	4,581			2,063	2,016		
	興行収入	17,077	15,601	11,991	15,457	17,627	25,503		
	映画館入場者数(千人)	11,220	10,223	7,163	9,793	10,969	16,401		

業績分析(増減要因)

映画営業	YoY	「鬼滅の刃」「国宝」や洋画作品等のヒットにより、大幅増収となったものの、前年同期にあった「ゴジラ-1.0」の配信権収入が剥落したこと等により減益
映画興行	YoY	当社配給作品等の高稼働によるチケット収入の増加に加え、コンセッション(飲食)等が伸長した結果、大幅に増収増益
映像関連	YoY	映画やTV・ライブイベント等での舞台製作・美術製作やテーマパークにおける展示物の製作業務、メンテナンス業務等を受注し、増収増益

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 14

次に、セグメント別の業績分析です。

映画事業セグメント全体は好調に推移し、増収増益となりました。映画営業、映画興行、映像関連の各小セグメントの前年同期との増減要因は、記載のとおりです。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

東宝グループ国内配給作品の興行収入推移



※ 2025年2月期より実写やアニメ、音楽、ステージ等の配給を行うレーベル「TOHO NEXT」作品を含む

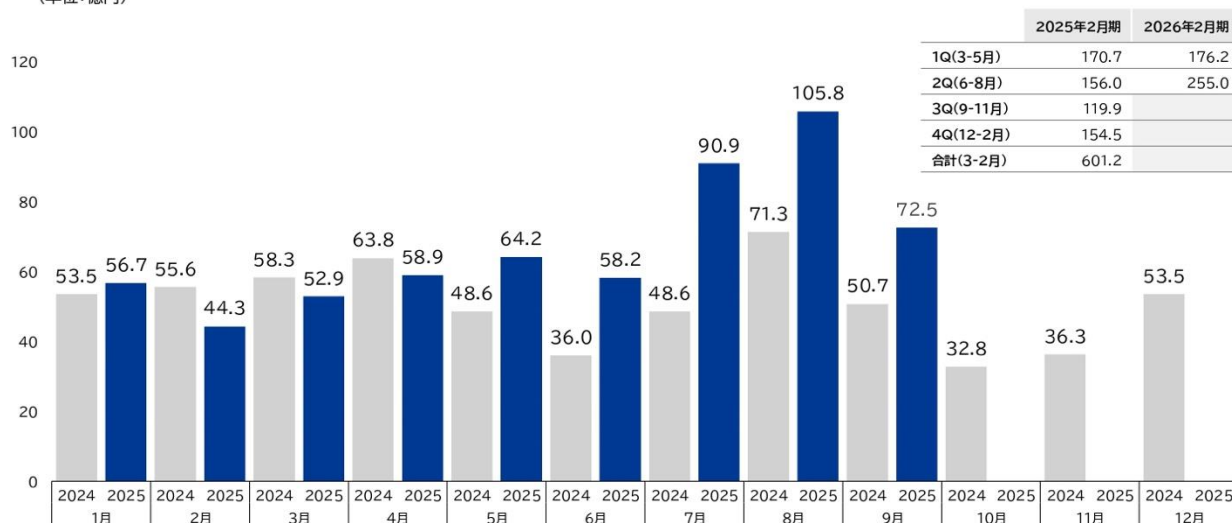
©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 15

東宝グループ国内配給作品の興行収入の推移となります。「鬼滅の刃」「国宝」などのヒットにより、前年同期よりも数字が伸びております。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

東宝グループ映画興行部門の興行収入推移

(単位:億円)



©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved. 16

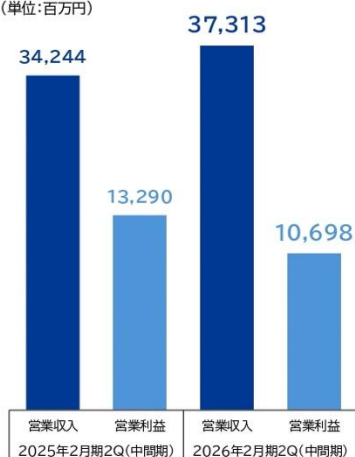
東宝グループ映画興行部門の興行収入の推移となります。こちらも好調に推移しております。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

IP・アニメ事業セグメントの業績(中間期)

サイエンスSARU、GKIDSの貢献やゴジラの商品化権収入等により前年同期と比べ増収となったが、のれんの償却額の発生やパッケージ・商品物販等の減少に伴い減益

(単位:百万円)



		2025年2月期				2026年2月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
IP・アニメ	営業収入	17,063	17,181			18,999	18,314		
	営業利益	7,289	6,000			6,335	4,363		
参考	映像の利用・許諾	7,232	5,857			9,065	6,584		
	商品化権の利用・許諾	2,933	3,445			4,286	3,805		
	商品の販売	5,943	6,374			3,973	5,673		

業績分析(増減要因)

YoY

サイエンスSARU、GKIDSの貢献に加え、「ゴジラ」をはじめとする東宝怪獣キャラクターの商品化権収入や、「薬屋のひとりごと」「呪術廻戦」「ハイキュー!!」等のTOHO animation作品の国内外の配信権利用が伸長

また、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいては「劇場版『鬼滅の刃』無限城編第一章猊座座再来」「名探偵コナン 隻眼の残像」をはじめとする当社配給作品の販売が好調に推移した他、カードゲーム等の「ゴジラ」商品の販売が好調

一方、のれんの償却額の発生や、前年同期に好調だった「ゴジラ-1.0」「葬送のフリーレン」等のパッケージ販売やTOHO animation作品の商品物販が減少したこと等により減益

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 17

IP・アニメ事業です。営業収入はサイエンス SARU や GKIDS の貢献に加え、ゴジラをはじめとする東宝怪獣キャラクターの商品化権利用収入や、TOHO animation 作品の国内外の配信権利用が伸長し、増収となりました。

営業利益はのれんの償却が発生したことや、前年同期に好調だった「ゴジラ-1.0」「葬送のフリーレン」などのパッケージ販売や、TOHO animation 作品の物販が減少したことなどにより、減益となりました。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

TOHO animationのソース別営業収入・国内外構成比(中間期)

ソース別営業収入

	2025年2月期 2Q(中間期)	2026年2月期 2Q(中間期)	増減	増減率	主な増減要因	(単位:百万円) 構成比
配信	10,919	11,431	512	4.7%	「薬屋のひとりごと」「呪術廻戦」「ハイキュー!!」等が国内外で好調	53.3%
キャラクターライセンス	4,881	5,050	169	3.5%	海外において「呪術廻戦」等が貢献	23.5%
商品物販	4,980	1,727	△3,253	△65.3%	前年同期は「ハイキュー!!」「呪術廻戦」等のキャラクターグッズが伸長	8.0%
パッケージ	1,789	576	△1,213	△67.8%	前年同期は「葬送のフリーレン」「ウマ娘 プリティーダービー」等が好調	2.7%
配分金 その他※1	1,558	2,677	1,119	71.8%	「ハイキュー!!」「Dr.STONE」「葬送のフリーレン」等が貢献	12.5%
合計	24,129	21,463	△2,666	△11.0%		

参考:劇場公開(国内)	6,546	504	△6,042	△92.3%	前年同期は「劇場版 ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ユアネクスト」がヒット	
-------------	-------	-----	--------	--------	---	--

国内外構成比※2

	2025年2月期 2Q(中間期)	2026年2月期 2Q(中間期)	増減	増減率	主な増減要因	(単位:百万円) 構成比
国内	16,743	13,432	△3,311	△19.8%	前年同期は「ハイキュー!!」「呪術廻戦」等のキャラクターグッズが伸長	62.6%
海外	7,385	8,030	645	8.7%	「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」等の配信・キャラクターライセンスが好調	37.4%

・本表の対象範囲は、TOHO animationレベル及びこれに準ずる作品です

・当資料は、アニメ事業に関する開示情報の充実性の観点から自主的に作成したものであり、他の決算資料における数値とは整合しない場合があります

・各ソースの収益認識時期は次の通り。配信・キャラクターライセンス:知的財産を使用する権利の許諾開始時点、商品物販・パッケージ:顧客に商品を引き渡した時点、配分金・ゲーム:報告書受領時点、劇場公開:映画上映時点

※1 ゲームを含む ※2 劇場公開(国内)を除く

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 18

TOHO animation 作品のソース別の営業収入・国内外構成比です。配信とキャラクターライセンスにおいては、「薬屋のひとりごと」「呪術廻戦」「ハイキュー!!」などのタイトルが好調に稼働しました。一方、商品物販においては、前年同期に「ハイキュー!!」「呪術廻戦」が好調だったため、減収となっております。

なお、海外においては「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」などの配信や、キャラクターライセンスが好調に推移しました。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

TOHO animationのソース別営業収入の推移(四半期)



※2026年2月期1Qの商品物販について数値を遡及修正
(注)2026年2月期より管理会計システムが変更となったため、過去の数値の集計方法とは異なる
(注)海外売上高は「配信」と「キャラクターライセンス」のみ

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 19

TOHO animation 作品のソース別収入の推移は記載のとおりです。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

TOHO animation 配信・キャラクターライセンス収入の状況(四半期)

動画配信やキャラクターライセンスの収益が、アニメビジネスの堅調な成長を牽引



©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 20

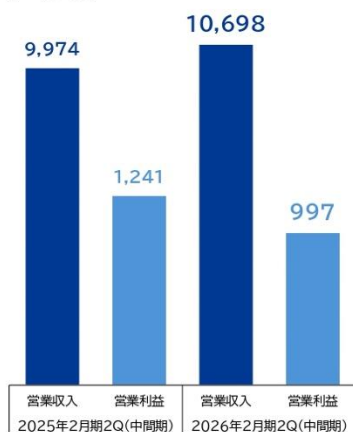
TOHO animation の配信・キャラクターライセンス収入の状況となります。国内外とも順調に成長しております。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

演劇事業セグメントの業績(中間期)

帝国劇場の休館中も主催公演の回数確保に努めた結果、増収となったものの、1Qにおいて借館料等の公演にかかる費用増により減益

(単位:百万円)



		2025年2月期				2026年2月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
演劇	営業収入	5,246	4,728	6,273	6,642	5,117	5,580		
	営業利益	1,009	231	1,293	1,595	70	926		
参考	公演回数	234	174	270	268	254	176		

業績分析(増減要因)

YoY
帝国劇場の休館中もシアタークリエ(「ボニー&クライド」「陽気な幽霊」「Nostalgic Cabaret」「Only 1, NOT No.1」「ジャージー・ボーイズ」)や、外部の劇場を活用し、主催公演の回数確保に努めた
『「ナイツ・テイル-騎士物語-」ARENA LIVE(東京ガーデンシアター)』は大入りとなった他、『レ・ミゼラブル』の社外公演や『舞台『千と千尋の神隠し』』上海公演等を展開し、増収

営業利益は借館料等の公演に係る費用等の増加により減益

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 21

演劇事業です。帝国劇場の休館中も、シアタークリエや外部の劇場を活用し、主催公演の開催を行いました。8月に開催した、「ナイツ・テイル-騎士物語-」が盛況となったことなどから、増収となりました。

一方、営業利益は第1四半期に借館料等の公演に係る費用等の増加があったことなどから、減益となりました。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

不動産事業セグメントの業績(中間期)

営業収入は堅調に推移。大規模修繕費が減少したこと等により増益

(単位:百万円)



		2025年2月期				2026年2月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
不動産賃貸	営業収入	9,419	9,422	9,502	9,603	9,474	9,419		
	営業利益	2,835	2,880	3,042	1,982	3,767	3,177		
道路事業	営業収入	8,062	6,885	6,885	8,439	7,830	6,821		
	営業利益	1,551	971	1,014	1,267	1,801	977		
不動産保守・管理	営業収入	2,908	2,499	3,072	2,949	2,843	2,924		
	営業利益	352	252	381	295	391	347		

業績分析(増減要因)

不動産賃貸	YoY	全国に所有する不動産が堅調に稼働したこと等により増収。利益は前年同期と比べ大規模修繕費が減少したこと等により増益
道路事業	YoY	大型工事案件の減少があったものの、原材料等上昇分の価格スライドが認められたこと等により、減収増益
不動産保守・管理	YoY	東宝ビル管理㈱及び東宝ファミリーーズ㈱において、大型案件の受注や既存取引先との請負金額の改定等に努めたことにより、増収増益

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 22

不動産事業です。営業収入は全国に所有する不動産が堅調に稼働したことなどから、増収となりました。営業利益につきましては、大規模修繕費が減少したこと等により増益となりました。

各小セグメントの前年同期との増減要因は、記載のとおりです。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2025年2月末	2025年8月末	増減	増減理由及び備考
流動資産	202,050	258,896	56,845	有価証券+29,492、受取手形、売掛金及び契約資産+15,654等 (参考)棚卸資産※1の残高:20,854
固定資産	451,017	456,828	5,811	
有形固定資産	243,502	245,133	1,631	土地+2,139、建設仮勘定+1,119、建物及び構築物△2,109等
無形固定資産	30,751	28,989	△1,761	ソフトウェア+2,193、のれん△1,619、その他△2,336
投資その他の資産	176,764	182,706	5,941	投資有価証券+5,550等
資産合計	653,068	715,724	62,656	
流動負債	90,941	115,549	24,608	買掛金+19,422等 (参考)短期借入金の残高:32、1年内返済予定の長期借入金の残高:305
固定負債	67,311	72,681	5,369	その他+4,967等 (参考)長期借入金の残高:1,425
負債合計	158,253	188,231	29,978	
株主資本	425,608	450,696	25,088	自己株式+40,341※2、利益剰余金△12,074等
その他の包括利益累計額	52,781	59,674	6,893	その他有価証券評価差額金+10,813、為替換算調整勘定△3,898等
非支配株主持分	16,425	17,123	697	—
純資産合計	494,815	527,493	32,678	
負債純資産合計	653,068	715,724	62,656	
自己資本比率	73.3%	71.3%	△2.0ポイント	

※1 主に当社が製作する映画やアニメの製作品及び仕掛品を含む(製作出資映画については公開月に85%を償却、残り15%は翌半期に償却)

※2 自己株式の消却: 将来の自己株式の処分による株式価値の希薄化懸念を払拭するために、2025年4月30日に10,490,633株を消却

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 23

連結 BS は記載のとおりです。

2026年2月期第2四半期(中間期)業績

連結キャッシュ・フロー計算書(中間期)

(単位:百万円)

	2026年2月期2Q (中間期)	主な内訳
営業活動による キャッシュ・フロー	47,755	税金等調整前中間純利益50,416、仕入債務の増減額(△は減少)20,106、減価償却費6,760 売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)△16,599、法人税等の支払額△13,028
投資活動による キャッシュ・フロー	△18,470	有価証券の売却による収入13,510、投資有価証券の売却による収入10,555 有価証券の取得による支出△30,945、有形固定資産の取得による支出△8,239
財務活動による キャッシュ・フロー	△8,875	配当金の支払額△8,460
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△409	
現金及び現金同等物の増減額	19,999	
現金及び現金同等物の期首残高	76,608	
現金及び 現金同等物四半期末残高	96,607	

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 24

連結キャッシュ・フロー計算書も記載のとおりです。

2026年2月期通期業績予想（2025年10月15日修正）

「鬼滅の刃」「国宝」の記録的なヒットにより、映画事業が当初の予想を大きく上回り推移したことに加え、IP・アニメ、演劇、不動産事業も堅調に推移したこと等から、通期業績予想を上方修正

（単位：百万円）

	2026年2月期 （7/15予想）	2026年2月期 （修正値）	増減	増減率	2025年2月期 実績	修正値 対 前期実績	
						差	比
営業収入	300,000	360,000	60,000	20.0%	313,171	46,828	15.0%
営業利益	57,000	65,000	8,000	14.0%	64,684	315	0.5%
経常利益	55,000	65,500	10,500	19.1%	64,455	1,044	1.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	43,500	47,500	4,000	9.2%	43,357	4,142	9.6%

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 26

続きまして、業績見通しと株主還元についてご説明いたします。2026年2月期の通期業績予想についてです。「鬼滅の刃」「国宝」の記録的なヒットにより、映画事業が当初の予想を大きく上回り推移したことに加え、IP・アニメ、演劇、不動産事業も堅調に推移したことなどから、通期業績予想を上方修正いたしました。

業績見通し／株主還元

2026年2月期 セグメント別 営業収入予想(2025年10月15日修正)

(単位:百万円)

	2026年2月期 (期初見通し)	2026年2月期 (修正値)	増減	増減率	2025年2月期※ (旧開示基準)
映画事業	132,200	179,000	46,800	35.4%	209,253
映画営業	40,900	66,200	25,300	61.9%	55,958
映画興行	76,700	93,800	17,100	22.3%	75,633
映像関連	14,600	19,000	4,400	30.1%	77,661
IP・アニメ事業	69,800	75,900	6,100	8.7%	—
演劇事業	18,600	22,500	3,900	21.0%	22,890
不動産事業	78,000	81,300	3,300	4.2%	79,653
不動産賃貸	37,300	40,200	2,900	7.8%	37,949
道路事業	29,300	29,300	—	—	30,274
不動産保守・管理	11,400	11,800	400	3.5%	11,430
その他事業	1,400	1,300	△100	△7.1%	1,372

※ 2025年2月期実績は、セグメント区分変更前の数値となります

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved. 27

セグメント別営業収入予想は記載のとおりです。

株主還元

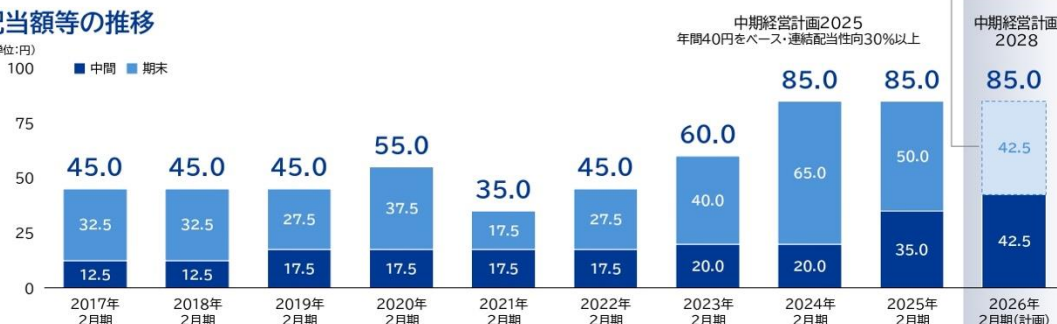
株主還元の方針(中期経営計画2028(FY2026-FY2028))

年間85円/1株の配当を下限に連結配当性向35%以上かつ機動的な自己株式取得を実施

期末の配当予想は当社の株主還元の方針に基づき、検討

1株当たり配当額等の推移

(単位:円)
100 ■ 中間 ■ 期末



配当性向(%)	24.6	24.2	26.8	27.0	42.4	26.9	31.5	32.8	33.4	—
総還元性向*(%)	49.7	34.7	29.5	27.1	89.2	46.4	61.9	32.9	79.6	—
配当総額(億円)	81.7	81.1	81.0	98.9	62.2	79.6	105.1	148.6	144.6	—
自己株式の取得額(億円)	84.4	35.4	8.3	0.1	68.7	57.9	101.9	0	200.6	—

※総還元性向 = (配当総額 + 自己株式の取得額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益 × 100

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved. 28

株主還元についてです。配当予想については現時点で変更はございませんが、期末の配当予想につきましては、株主還元方針に基づき検討していく考えです。

業績見通し／株主還元

下期から来期にかけてのラインナップは豊富

映画



詳細はp.33～p.37をご覧ください

©2025映画「8番出口」制作委員会 ©2025MAPPA/チェンソーマンプロジェクト©松本マツキ/東宝 ©2025「果てしなきスカーレット」制作委員会 ©2025スタジオ地図 ©2026「ほどなく、お別れです」制作委員会 ©長月実登/小宇雅
©新田サトル/東宝 ©2026映画「ゴールデンカムイ」制作委員会 ©原金ス/東宝 ©2026映画「キングダム」制作委員会

アニメ



©堀越耕平/東宝・僕のヒーローアカデミア制作委員会 ©渡辺健史/東宝・SPY×FAMILY制作委員会 ©2026うのひまわり・講談社/「ダウイング事変」制作委員会 ©山田謙人・アベツカサ/「葬送のフリーレン」制作委員会
©芥見下々/東宝・One Piece制作委員会 ©古賀光之・別々等々・堀越耕平/東宝・ヴァンランサー制作委員会 ©北沢信弘/「スノウガールアース」制作委員会 ©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 29

最後に、下期から来期にかけてのラインナップについてご説明いたします。

映画では既に「8番出口」「チェンソーマン」がヒットしておりますが、11月には細田守監督の4年ぶりの最新作、「果てしなきスカーレット」が公開となります。「果てしなきスカーレット」は日本および全世界で、ソニー・ピクチャーズ エンタテインメントとの共同配給が決定しております。

来期には「キングダム」「ゴールデンカムイ」など、ヒットが期待できる作品が豊富にそろっています。さらに冒頭で申し上げましたが、来期からはワーナー・ブラザーズ作品の配給受託分も加わり、映画のパイプラインがさらに充実する見通しです。

アニメにおいても下期から、「僕のヒーローアカデミア」「SPY×FAMILY」「葬送のフリーレン」「呪術廻戦」の新作が続々と放映となります。こちらも期待できるパイプラインがそろっておりますので、今後も国内外でのさらなる飛躍を目指していけると考えております。

私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

以上